

< 学力調査による生徒の実態 >

	全国学力				県学力				市学力		
教科	3 国語	3 数学	3 理科	3 英語 話すこと	3 英語	2 国語	2 数学	2 英語	1 理科	1 国語	1 数学
全国											
長崎県											
長崎市											
本校											

- ・ 情報と情報を結び付け、意図に応じて内容を読み取ることができていない。
- ・ 資料を活用し、条件に合わせて自分の考えを書くことができていない。

< 本校の課題 >

- ・ まじめに授業等に取り組むが、基礎・基本の定着が不十分である。
- ・ 表現力に乏しく、他者に理解や考えを自分の言葉で伝えられない。
- ・ 自らの課題を見出し、取組を振り返る姿勢が不十分である。

学校教育目標

夢や希望を持ち 力を合わせて 時代を生き抜く児童生徒の育成

< 目指す生徒の姿 >

- ・ 夢や希望を持ち、学習に主体的に取り組むことのできる生徒。
- ・ 自分の考えや思いを伝えることのできる生徒。
- ・ 「対話」を通して自分の考えを深めることのできる生徒。

< 検証指標 >

- ① 全国・県の学力調査の結果について、個人比で10ポイント上回る。
- ② 全国・県の学力調査の記述問題の正答数が個人比で前年度を1問上回る。

学校< 全教科等で共通した取組 >

学校< 全教科等で共通した取組 >			家庭・地域との連携
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
①「めあて・まとめ・振り返り」の徹底。 学習者用端末を活用した授業の振り返り。 ②基礎・基本の定着のために補充学習を設定し、 個に応じた学習支援。Qubenaの活用。 ③知識定着のための方法を各教科で工夫。 (授業UD、UDLの視点)	①ねらい(条件)に即して自分の考えを書く場面を仕組む。 ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、 プレゼンテーションや対話の場面を仕組む。 ③長崎県読解力育成プランの視点を取り入れた授業場面を 仕組む。	①視覚的に理解の状況が分かるような工夫。 (個別の支援を必要とする生徒への配慮) ②「達成感」「自己肯定感」を高めることに配慮した 課題の設定。 ③家庭学習の推進。 (challengeノート等の活用)	①積極的な情報発信。(学校・保健便り・学級通信 の発行) ②家庭での生活習慣の見直し。 (メディアの利用の仕方 ※夜9時以降は通信端末 機を保護者に預ける等) ③家庭学習の習慣化。(challengeノート等の活用)

< 各教科等の課題解決に向けた取組 >

< 国語 >	< 社会 >	< 数学 >	< 理科 >	< 英語 >	< 音楽 >
・ オンライン辞書やネット検索の 活用による、語彙力・情報活用 能力の向上。 ・ 「書く」活動にあてる時間の確 保と、内容の充実。 ・ 授業形態の工夫による対話力の 向上。	・ 板書とワークシートの工夫と まとめプリントを活用した基 礎基本の定着 ・ 各単元や授業ごとの問いの解 決を通した表現する力の育成 ・ 定期テストの出題予告プリ ントからの出題により達成感 や自己肯定感をもたせる	・ 問題を解決する際、条件を整理する こと、既習事項を想起すること、見 通しを立てることを意識づける ・ 解決の方法や判断の理由を説明する 場面の設定 ・ 個人の課題に応じた学習の進め方 の指導(challengeノートやQubena等 の活用)	・ ねらい、ゴール、活動の焦点化 を図る(授業UD、UDLの視点) ・ 予想や考察場面で根拠をもとに 考えを書くことを意識づける (表現力の育成) ・ 知識定着、表現力向上のために、 ワードバンクを活用させる (授業UD、UDLの視点)	・ 5領域を取り入れた授業の実施 ※目的・場面・状況に応じた表 現力の育成 ・ 「達成感」「自己肯定感」を 高めるために適切な課題を設定 する。 (単元テスト・授業UD、UDLの視点) ・ readingとlisteningの強化 (ICT教材の活用) ・ 生徒の実態に応じた個別指導 (challengeノートやQubena等の活用)	・ 基礎・基本の定着 ・ 技能を得たり、生かしたりしながら 「思考・判断・表現」に必要な技能 として高めていく指導(習得と活用) ・ 表したい思いや意図を言葉で伝え合 いながら、実際に体を動かしたり、 演奏したりして表現を高めていく指導